

一ギニヤ産のもの、岡村先生のボナベ島のものは夫々別種であるとし又其の上マウリチュウス島には上記の *T. Pikeana* とは別の一種を産するとしてそれに *T. mauritiana* BOERG. なる名前を与えている。

処がここに面白い事にはフランスの FELDMANN は BOERGESSEN が上記の初めの論文即ち 1943 年の論文を発表した前年に已にこの問題にふれそのヒカゲノイト科(Nemastomaceae)に関する Remarques sur les Némastomacées なる論文に於いて J. AGARDH の *Titanophora* なる節に入れられた種はヒカゲノイト科に移さるべきもので其の上 *Titanophora* なる節名はとつて其の儘新属名とすべきものであると全く上記 BOERGESSEN と同じ考えに到達しているのである。依つてベルゲーゼンによつて区別された 5 種の正しい学名は次の様になる。即ち *T. Pikeana* (DICKE) FELDMANN; *T. incrustans* (J. AG.) BOERG.; *T. Weberae* BOERG.; *T. mauritiana* BOERG.; *T. calcarea* (OKAM.) BOERG. そして今紀州から新たに知られた *T. Weberae* BOERG. に対してはベニザラサなる和名を与え度いと思う。

本稿を草するに当つて標本の寄贈をえた森島千景氏の御厚意を深謝し、又同時に木下虎一郎、山本虎夫の両氏に厚く感謝の意を表するものである。

(北海道大学理学部植物学教室)

## 新 著 紹 介

コ ス タ ー 著

### オ ラ ン ダ の ネ ダ シ グ サ 属

J. TH. KOSTER: The genus *Rhizoclonium* in the  
Netherland. Pubbl. Staz. Zool. Napoli,  
1955, vol. 27, p. 335-357.

オランダの海産のネダシグサ属は多くの場合汽水、鹹水等の粘土、砂、石、木等の上には他の植物と混じている。この属の種の同定は殆んど糸状体の細胞の大きさによつて行なわれている。然し、この大きさは文献によつて区々であり、更に根の様な枝の有無についても区々なので、種の同定は困難であり、正確を欠く事が多かつた。

そこでコスター女史はこの属を研究するに当り、多くの古い基準標本を検し、同国から 1 種、2 品種を明かにし、之等のシノニムとすべきものを多く見出している。この様に多くの古い標本を検する機会に恵れていることは、我々科学の歴史の新しい国にある者に

は羨しい事である。

又海産の *Rh. riparium* と淡水産の *Rh. hieroglyphicum* (AG.) KÜTZ. とは乾燥した場合区別出来ない事も、根の様な枝の形成に就いても、塩分等生態学的要因による事が多いと思われる。之等の疑問は実験分類学によつて解決されるだろうと女史は述べている。

次にオランダ産のものゝ検索表を掲げ、そのシノニムを記す。

1. 根の様な枝を有し、又は有せず、之を有する時は1個細胞よりなる場合が多く、時に数個細胞よりなる；体の細胞は18-48 $\mu$ 太く、 $\frac{1}{2}$ -4 $\frac{1}{2}$ (1-2)倍長し …………… 2
1. 根の様な枝を有せず、稀に1個細胞よりなる之を少数有す；体の細胞は10-21(14-18) $\mu$ 太く、1-8 $\frac{1}{2}$ (2-3)倍長し …………… *Rh. implexum*
2. 体の細胞は18-33(20-30) $\mu$ 太し …………… *Rh. riparium* f. *riparium*
2. 体の細胞は30-48 $\mu$ 太し …………… *Rh. riparium* f. *validum*

*Rh. implexum* (DILLW.) KÜTZ.

*Conferva implexa* DILLW.; *Rh. Kochianum* KÜTZ.; *Rh. lacustre* KÜTZ. p. p.; *Rh. lacustre* f. *rigidum* KÜTZ.; *Rh. biforme* KÜTZ. p. p.; *Rh. Kernerii* STOKM.; *Rh. riparium* f. *tenuior* WITTR.

*Rh. riparium* (ROTH) HARV. f. *riparium* KOSTER.

*Conferva riparia* ROTH; *Rh. jürgensii* (MERT.) KÜTZ.; *Rh. biforme* KÜTZ. p. p.; *Rh. interruptum* KÜTZ.; *Rh. affine* KÜTZ.; *Rh. lacustre* KÜTZ. p. p.; *Rh. lacustre* f. *velutinum* KÜTZ.; *Rh. riparium* var. *implexum* (non DILLW.) ROSENV.

*Rh. riparium* (ROTH) HARV. f. *validum* FOSLIE.

*Conferva tortuosa* DILLW.; *Rh. tortuosum* (DILLW.) KÜTZ.

(阪井与志雄 北大理学部植物学教室)

## 学 会 録 事

役員移動：今般、11月1日附をもつて阪井与志雄氏が本会会計幹事を委嘱され、編集・会計幹事であつた舟橋説往氏は編集幹事専任となつた。